

事業報告の概括

1 法人全体の概括

①事業運営について

- ・ 6 年度報酬改定において、基本報酬は増額となりましたが、各種研修や委員会設置要件などの基準が厳しくなり、業務負担が増えました。
- ・ 訪問介護事業を 9 月末から事業休止し、利用者についてはトラブルなく円滑に他事業所に移行して頂きました。
- ・ 前年にコロナウイルス感染症 5 類に移行したことにより、表面的には感染症の影響は減りましたが、利用控えの傾向は一部続いており、大幅な利用者増加には至りませんでした。
- ・ 高齢者福祉事業においては、養護やデイサービスなどで利用者の伸び悩みが続き、減収となりました。
- ・ 障害福祉事業においては、就労継続 B 型や計画作成などでは、大きく実績を伸ばしましたが、入所系サービスでは前年並みの実績となりました。

②職員処遇・労務について

- ・ 5 年度的大幅な赤字決算を踏まえて、6 月賞与は一律 1 割カットを実施しました。1 2 月賞与は年度上半期が好調だったため、通常支給に戻っています。
- ・ 訪問介護事業休止により、職員の配置換えを行い、職員不足は多少改善されましたが、特に専門職種において慢性的な不足状態は継続しています。

2 各事業所の概括

①法人事務局

一部共同購入を実現した他は、目立った成果はありませんでした。食材費の高騰が進み、食費単価 2 7 0 円の目標も達成できませんでした。

②養護老人ホーム妻有荘

措置事業については、介護重度の入所者が他施設へ移行する退所が増えていますが、その退所者の補充がままなりません。職員の人数は増えていますが、パート勤務者が多く、業務分掌が困難な状況になりました。ショートステイについては、感染症対策により一時利用を抑制をしました。

③老人デイサービスセンターつまりの里（通所）

コロナウイルス感染症による休業がなく、昨年の利用実績を上回ることができました。職員の離職や異動、休業が相次ぎ、安定したサービス提供ができていません。

④老人介護支援センターつまりの里

新規の利用者よりも、入院・入所等による終了の利用者が若干多くなりましたが、職員の経験や資質向上が図られ、件数は昨年より増えました。

⑤十日町南地域包括支援センター

管轄地域の人口減少に伴ってか、相談件数・給付管理件数ともに減少傾向にあります。地域に出向く取り組みは継続的に行っています。

⑥老人福祉センター平成園

指定管理事業については、活動メニューの見直しを行い、施設設備を活用した活動を増やしました。生きがいデイサービスについては、昨年とほぼ変わらない実績となりました。

⑦障がい福祉サービス事業所エンゼル妻有

数年来、定員超過状態であった就労継続B型について、職員体制が整ったため、定員増加を行いました。就労系の利用率は昨年比で微減となりましたが、入所系の利用率は昨年より伸びました。しかし、退所後のサービス移行が年々課題になっています。

⑧障がい者地域生活支援センターエンゼル妻有

相談支援については、計画作成実績が昨年に続けて伸びました。地域活動支援については、施設来所者は年々減少していますが、活動メニューの見直し等により、活動参加実績は維持しています。

⑨十日町市身体障がい者福祉センター

指定管理事業については、施設設備の老朽化で修繕が増えています。地域活動支援センターにおいては、登録利用者数はほぼ変わりませんでしたが、利用が不安定な利用者の割合が増え、利用実績が落ち込みました。

⑩デイサービスセンターアップルつまり

昨年に引き続き利用実績が減っている上、利用者の軽度化が進んでおり、大幅な赤字状況となりました。特に総合事業において、加算要件が大きく変わり、対応に苦慮しました。

⑪高齢者専用アパートエスポワールさいわい

コロナウイルス感染症の制約が緩和される中、入居者交流のための畑作業や防災対策を行いました。